

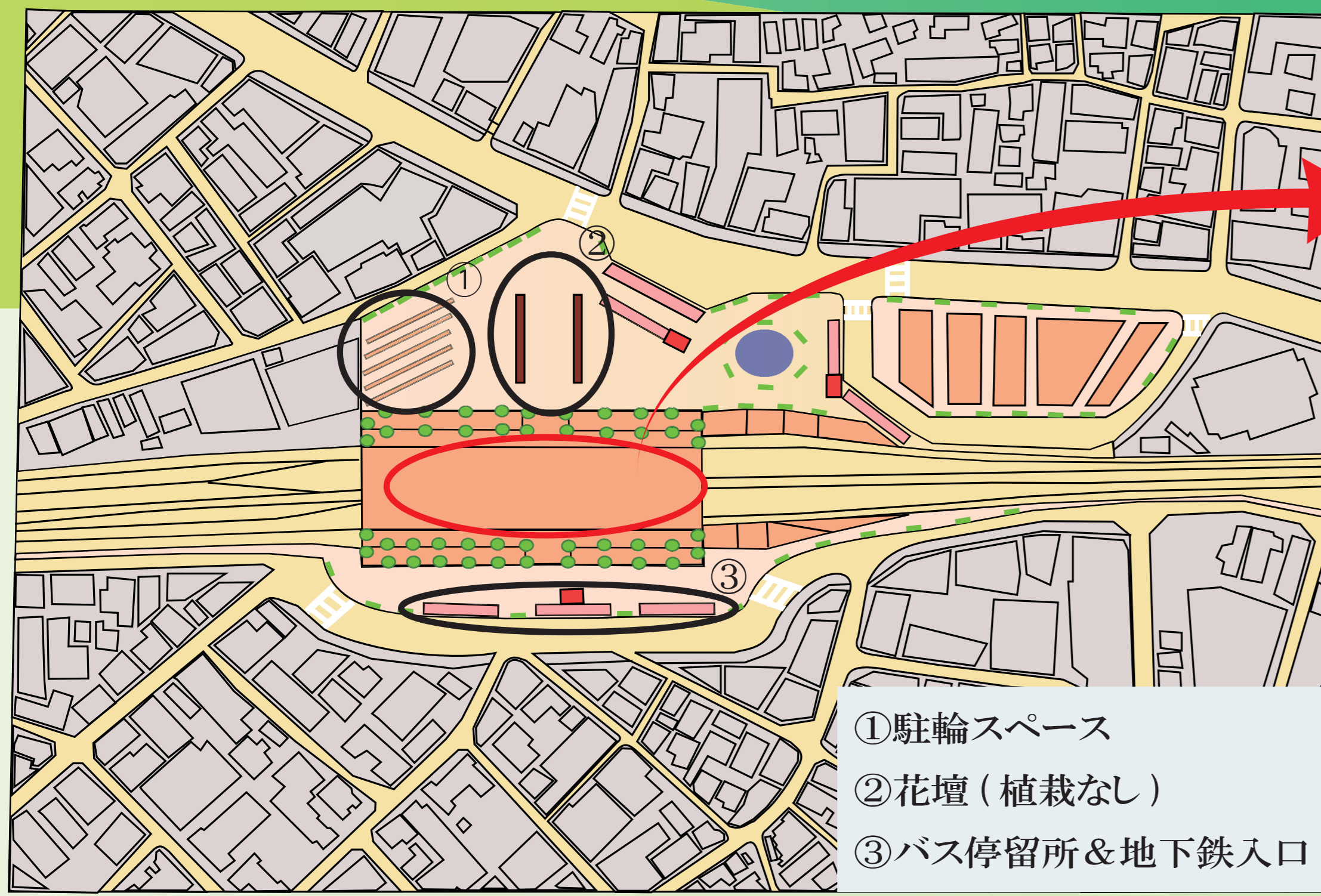
タイトル	ゆうきたい～つながり成長する街～
提案者 (所属・代表者)	柴田英明、坂場論士、山口暁 (法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科)
整理番号	57
賞	佳作

【注意事項】

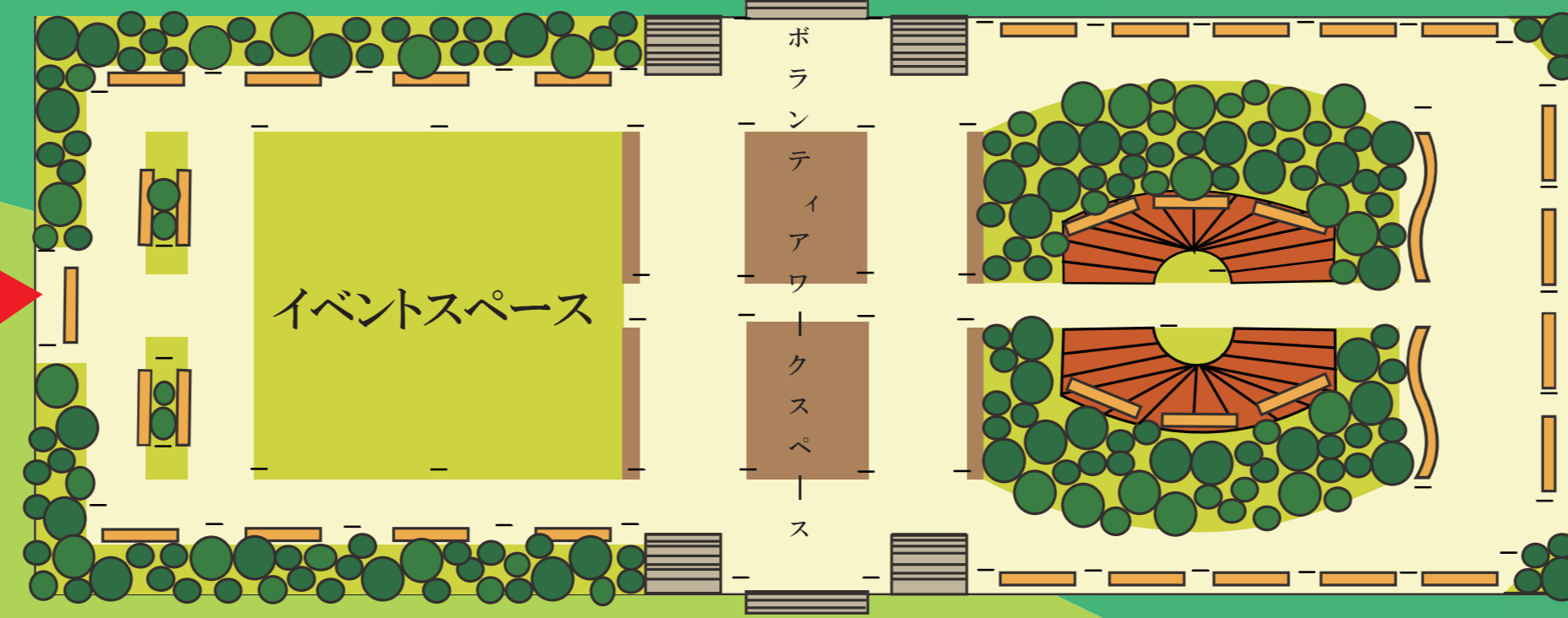
本資料は、平成 24 年に杉並区が開催した「これからの荻窪駅周辺まちづくりを考えるアイデアコンペ（以下、アイデアコンペ）」において応募者から提案された一作品です。今後の荻窪におけるまちづくりの方向性を決定するものではありません。

アイデアコンペの詳細については、以下のページをご覧ください。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s094/6497.html>



- ①駐輪スペース
- ②花壇（植栽なし）
- ③バス停留所&地下鉄入口



たくさんのものをつながい・・・

ここにしかない街へ・・・

今回の提案は、あえて未完な部分を残す、スロープロセスなものです。これは、街はみんなのもの、みんなでつくるものだと考えたためです。ボランティア、イベント等を通して、みんなでつくりあげたものだからこそ愛され、時間をかけてできあがったものであるからこそ歴史ある、他にはない空間になるわけです。
みんなでつくりあげた素敵な街に、それを支えつくりあげた素敵な人たちがたくさんいる。そんな人たちと交流できる街はぜったいに最高ですよね。

ここから新たに始まる・・・

いきなり個性ある素敵な街なんてできません。道も公園も交通の便も、買い物の便も、あれも、これもと欲張ってもいい街なんてできません。まずは玄関を素敵に、外に出るのが楽しくなって、安心して帰ってくるのができて、立ち話するのさえ楽しくなるような玄関にしましょう。玄関の良さを玄関からみんなの力で街全体に広げていきます。なんか、楽しくなってきませんか？

人と、家と・・・

駅で楽しそうに遊ぶ子供、しあわせそうなカップル、読書や花を見ながらコーヒーを飲むおじいさん。どれも絵になります。いろんな人が集まることで、初めて、空間は成長し、完成します。
人とつながることで荻窪駅という空間は成長し続けます。
イベントや、ボランティア、商店街から素敵な空間を広げていきましょう。
家と、道と、たくさんのもの、それぞれが街のインテリアとして置かれ。それらが集まり組み合わせることで、素敵な駅から素敵な街へと成長していくんです。

- ちょっと一息しようと思える工夫として、ベンチを増やします。
- 人々の活気で見満たされる工夫として、イベントスペースやあえてなにも植わっていない花壇を設置し、地域の人にガーデニングのボランティアワークスペースをつくります。
- 駅空間の良さが広がっていく工夫として、カフェやテイクアウト店のためにテラスを広く提供し、駅前広場の緑を花や低木にします。これは、夜間も駅前の明るさを確保することで安全性の向上を図ったものです。



ゆうきたい

～つながり成長する街～



現状と改善案

Before

南北の街が分断されている
東京 23 区内唯一の地上駅であることを生かしていない



After

屋上から南北の街が一望できることで、街に一体感が生まれる
屋上や、駅の2階等から電車が駅に入ってくるのが見え、地上駅であることが景観に対し生かされる

駅自体を3階づくりにし、それぞれの屋上をオープンスペースとして活用